

●教室(診療科)の特色●

大阪医科薬科大学整形外科学教室は1952年に開講、70年近くの歴史を持つ診療科です。整形外科は、頭部・内臓を除くほぼ全身を占める運動器を扱う守備範囲の広い科です。subspecialtyは多岐にわたりますが、当教室では各専門領域のエキスパートが在籍し、大学病院ならではの高度な医療を提供しています。1日平均外来患者数は約100名、年間入院患者数は約900名、年間手術数は約950件と多忙な診療科です。様々な症例を、上級医と一緒に経験していく中で、基礎的な知識や手技を自然と身につけることができます。



根尾 昌志(ねお まさし)教授

■専門分野

脊椎外科学／人工材料学

■学歴、職歴

昭和58年 京都大学医学部卒業

平成 4年 京都大学大学院医学研究科博士課程(外科系専攻)修了

平成5年～8年 ベルリン自由大学ベンジャミン・フランクリン病院留学

平成14年 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座整形外科学講師

平成20年 京都大学大学院医学研究科感覚運動系外科学講座整形外科学准教授

平成24年 大阪医科大学学生体管理再建医学講座整形外科学教授

■主な学会／専門医資格

日本整形外科学会(理事、専門医、脊椎脊髄病医)

日本脊椎脊髄病学会(評議員、脊椎脊髄外科専門医)

日本脊椎・脊髄神経手術手技学会(理事)

■学術雑誌編集

Editorial Board of *Journal of Orthopaedic Science*

Regular reviewer of *Spine*

■研究課題

頸椎インストゥルメンテーション、生体活性材料の臨床応用

若い先生方へ

皆さんが研修、レジデント生活を送るにあたって、「臨床」「研究」「教育」における当教室が掲げる理念は以下の3点です。

①臨床:高度で先進的かつ安全な医療を提供すること

多くの患者さんが大学病院に求めるものは高度な医療です。しかし最初から完成された高度な医療がある訳ではなく、自身で創出していかねばなりません。医学のレベルをさらに上げるために、理論的に成功する確率が高いと思われる新しいことを、特に安全面に注意して開拓していきたいと考えています。一般的な治療を確実に行うことは言うまでもありませんが、高度医療を追求することが、結果的により多くの患者さんを救うことになると思っています。その創出の現場に是非参加してください。

②研究:医療の底上げをする理論を構築していくこと

経験と勘に頼るのではなく、基礎研究、臨床研究を通し、理論に裏打ちされた誰もが安全に行える診断、治療を開発することが大学の使命だと考えています。通り一遍のことをするのではなく、新しいことを追求、実践することが「大学の仕事」です。自由な発想や実践の無いところに新しいことは生まれません。みなさんが自由に考え行動することを当教室では奨励したいと考えています。柔軟な発想と確かな実行力をもつ若い医師が、基礎・臨床における多くの新しい知見を世界へ発信していくことが出来る環境を整えていきたいと考えています。さらに、人間の基盤を成す「ものの考え方」や、価値観の幅を広げるため大学院での研究生活や留学生生活を積極的に勧めたいと思っています。

③教育:疑問を持ち、合理的に考えることのできる整形外科医を育成すること

教科書や先輩のやり方を深く考えずに鵜呑みにするのではなく、問題点を自分で見つけ出し、それに対して自分で合理的に考えて解決することのできる人材を育てたいと思っています。このことは上記の①、②と密接に繋がっており、今後整形外科学を発展させていくためには非常に重要だと考えます。大学病院で自分たちが学んでいるのは最先端に近い事であるため、教科書の記載が必ずしも正しくないという事に若い先生方は早く気づかねばなりません。当教室では、常に疑問を持ち問題点を見つけて出す態度、その解答を自分で見つけていく積極的な姿勢を身につけていただきたいと思います。

●教室(診療科)の概要・特徴●

専門グループにおける最新治療を紹介します。

【脊椎・脊髄外科領域】 環軸関節亜脱臼などの上位頸椎疾患や胸椎後縦靱帯骨化症、脊髄腫瘍、高度な変形を伴う側弯症、後弯症など一般病院では対応の難しい高難度の手術を主に行っています。また側方侵入腰椎前方固定手技(OLIF)を用いて、低侵襲で合併症の軽減を目指した矯正固定手術を行っています。さらに骨粗鬆性圧迫骨折偽関節による遅発性神経障害に対しては、無除圧固定術を施行して良好な成績をおさめています。ハイブリッドCT手術室、ナビゲーションシステム、手術用顕微鏡、運動誘発電位を用いた術中脊髄モニタリング、術中超音波検査、内視鏡手術などを導入し、安全性を向上させるとともに、効果的な手術を提供できるように努めています。

【上肢の領域:肩関節外科、肘関節外科、手外科】 肩関節腱板広範囲断裂に対しては、独自の手法による鏡視下上方関節包再建術を行い、良好な治療成績を得ています。またスポーツによる関節軟骨障害に対する骨軟骨移植術、麻痺に対する機能再建手術、先天性あるいは外傷性の関節変形や拘縮に対する矯正術や解離術、人工関節置換術などを行っています。

【股・膝関節外科】 膝のスポーツ損傷例に対しては、鏡視下に靱帯再建術や半月板縫合術を行い、膝蓋骨不安定症に対しても三次元脛骨粗面移動術により良好な治療成績を得ています。変形性あるいはリウマチ性関節症に対して人工関節置換手術を、また術後に緩みを生じた人工関節の再置換術も行っています。

■ 連絡先：大阪医科大学整形外科学教室 TEL:072-683-1221(内線2364) 担当(藤原)／e-mail:ort033@osaka-med.ac.jp
 ■ ホームページ：<http://www.ort-osaka-med.jp/>

【足の外科】 外反母趾に対しては近位中足骨回外骨切り術を行い、その併存症に対しても独自の術式により、良好な治療成績を得ています。足関節インピンジメント症候群などスポーツ損傷例に対しては早期復帰を目指し、積極的に鏡視下手術を行っています。また陳旧性アキレス腱断裂に対しては、自家腱を犠牲にしない癒着組織を利用する手術を行っています。

【その他】 重度の骨関節変形や脚長不等に対しては、創外固定器を用いた変形矯正術や仮骨延長による骨長調整術を行っています。骨軟部腫瘍領域や先天性内反足などの小児整形外科領域の難治性疾患に対しても高度な治療を行い、良好な成績を得ています。

● 教室(診療科)指導医・上級医 ●

氏名(職掌)	専門医	専門
三幡輝久(准教授)	日整会専門医	肩・肘の外科(肩関節鏡など)
馬場一郎(診療准教授)	日整会専門医／脊椎脊髄外科指導医／日本骨粗鬆学会認定医	脊椎外科／腫瘍
横田淳司(講師)	日整会専門医／日本リウマチ学会専門医	上肢の外科
中野敦之(講師)	日整会専門医／脊椎脊髄外科指導医	脊椎外科
大槻周平(講師)	日整会専門医	関節外科(軟骨再生など)
嶋 洋明(講師准)	日整会専門医	足の外科(創外固定など)
岡本純典(講師准)	日整会専門医	関節外科(膝、股関節)
大野克記(助教)	日整会専門医／日本リウマチ学会専門医／日本手外科学会専門医	手・肘の外科
長谷川彰彦(助教)	日整会専門医	肩の外科(肩関節鏡など)
中矢良治(助教)	日整会専門医／脊椎脊髄外科指導医	脊椎外科
藤城高志(助教)	日整会専門医	脊椎外科
羽山祥生(助教)	日整会専門医	脊椎外科
宇佐見嘉正(助教)	日整会専門医	脊椎外科
若間仁司(助教)	日整会専門医	関節外科(膝・股関節)

初期臨床研修プログラムの特徴

初期研修(1年目、2年目)では、整形外科の基本的な診察能力の修得、外科の基本的な手技の修得を目標としています。また、患者さんやコメディカルと円滑なコミュニケーションがとれ、患者さんの立場に立った治療ができる思いやりのある良医の育成を目指しています。

研修内容と到達目標

<1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月の短期研修の場合>

代表的な整形外科疾患の外来診察、入院から退院を経験することで、検査とその手技(脊椎造影、関節造影、ストレスX線検査など)、画像診断(X線像、MRI、CT、シンチグラムなど)、身体診察(ROM、MMT、反射など)、術式選択、手術の実際、術後管理(創処置、関節穿刺など)、リハビリ科との連携(装具処方など)、患者とのコミュニケーションについて学んでいただきます。研修期間が短いので、全ての代表疾患を経験することはできませんが到達目標としては以下のものを挙げています。

運動器の救急疾患／外傷

骨折を始め感染症を含む項目です。経験すべき症例としては、成人四肢の骨折／脱臼、小児の外傷、末梢神経損傷、膝・足の靱帯損傷があります。骨折などの外傷は研修プログラム参加施設で主として学びます。

骨軟部腫瘍の診断と治療

大阪医大で主として学びます。画像診断に始まり、化学療法、生検(CTガイド下)、手術的治療などを体験しましょう。

<6ヵ月以上の長期研修の場合>

長期研修、または2年目の研修全てを整形外科とした場合は、より実践的な研修プログラムとなります。また経験する疾患も増えて、ほぼ整形外科領域の全てが網羅できます。短期研修の疾患に加え、変形性関節症、関節リウマチ、筋・腱損傷、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症などを主に研修します。



食事、休憩、自学自習、抄読会が行われる多目的スペース(医局内)整形外科関係の図書も豊富に揃っています。指導医、レジデント、大学院生と学問のみではなく人生相談を含め、色々な質問や話ができる自由な雰囲気の良い医局です。



入局希望の先生方のためのホームページです。是非アクセスしてみてください。
<http://www.ort-osaka-med.jp>

週間スケジュール

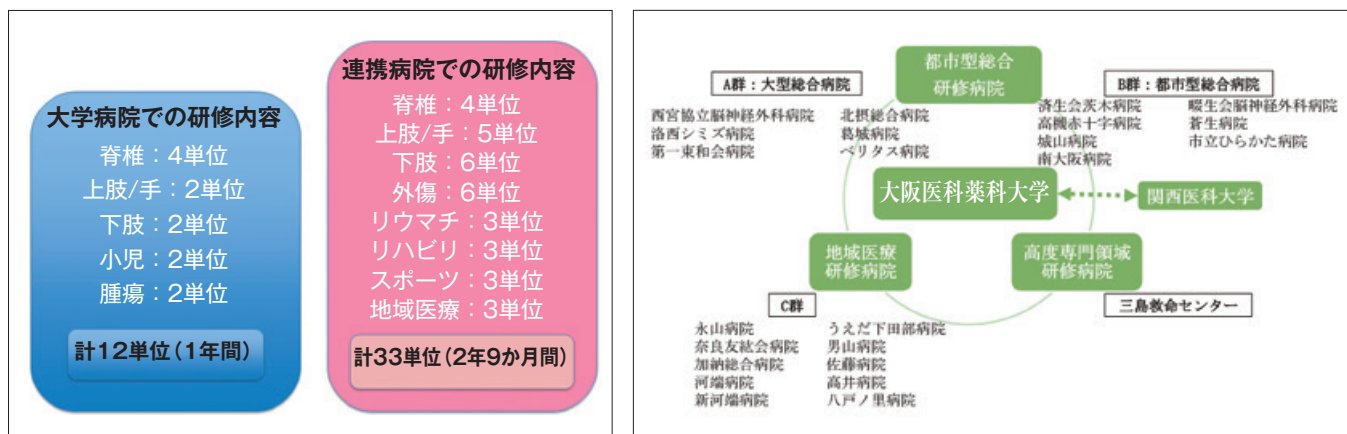
週間のスケジュールとしては毎日の外来診療に加えて回診、症例検討会、医局抄読会、週4日の手術日、特殊検査（脊髄造影／関節造影）日が組まれています。

また各専門グループの抄読会にも参加が可能です。

	午 前	午 後
月 曜 日	病棟研修あるいは外来研修、手術研修	カンファレンス／病棟回診
火 曜 日	朝の抄読会 手術研修	手術研修
水 曜 日	病棟研修あるいは外来研修	手術研修
木 曜 日	病棟研修あるいは外来研修	
金 曜 日	術前カンファレンス、手術研修	手術研修
土 曜 日	病棟研修あるいは外来研修、手術研修	

大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修プログラムの特徴

当教室では早くから専門研修プログラムの作成に取り組み、専攻医に対して魅力あるプログラムを提供しています。初期臨床研修を終了した皆さんは、整形外科医として後期臨床研修を開始する訳ですが、この4年間は非常に重要な意味を持ちます。当教室の専門研修プログラムは大学病院を中心として太陽系形式の研修プログラムです。



日本整形外科学会が推奨する研修単位は3年9か月間で45単位

太陽系形式の専門研修プログラム

大阪医科薬科大学病院整形外科専門研修プログラム

① 1 年目：大阪医科薬科大学整形外科（基礎的な手技と論理的思考を身につける）

整形外科は運動器を扱う守備範囲の広い科であり、サブスペシャリティは多岐にわたりますが、当教室では各専門領域の指導医が在籍し、大学病院としての高度な医療を提供しています。様々な症例を、上級医と一緒に経験していく中で、基礎的な知識や手技を自然と身につけることができます。また研究面においても各グループで独創性のある研究を行っており、研究成果を世界に向けて発信しています。また近隣の関西医科大学と相互に連携しており、希望があれば3か月間、関西医科大学での研修も可能です。

② 2 年目以降：連携病院での研修（経験の蓄積とスキルアップ）

大阪医科薬科大学整形外科での1年間の研修後は、基本的に1年毎に当教室の連携病院を3年間ローテーションします。連携病院においては、骨折等の外傷の診断と治療だけでなく、専門分野に特化した外傷や疾病の診療の研修が可能です。大阪医科薬科大学の研修プログラムでは、専門医試験の受験に必要な全領域の単位が確実に取得できるようにローテーションを組んでいます。この後期臨床研修期間を通して、将来自分が進むべきサブスペシャリティを選択することも可能です。

③ 整形外科専門医の取得後

専門医試験に合格後の進路としては、大きく分けて大学院へ進学するコースと、直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります。大学院へ進学する場合、研修終了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学で、さらに研究の幅を深める選択肢もあります。一方、研修プログラム終了後にサブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、大阪医科薬科大学整形外科ならびに連携施設において臨床医として専門領域の研鑽を積みます。

先輩レジデントのコメント



安達 史哉

令和2年入局の安達史哉です。弘前大学を卒業し、2年間の初期研修を市立ひらかた病院で行いました。研修医の時に、整形外科の分野に興味を持ち、整形外科を志しました。大学でのレジデント生活もそろそろ1年経ちますが、カンファ、手術、病棟業務など日々の仕事を通して学ぶことが非常に多い1年でした。今年は新型コロナの影響で例年と異なるところが多くあったと思いますが、同期入局者も多く、楽しく仕事ことができました。まだまだ知識、手技ともに未熟な身ではありますが、同期と切磋琢磨し、大阪医科大学の整形外科医として恥じないような医師になれるようがんばっていききたいと思います。



岩田 長瑠

令和2年入局の岩田長瑠と申します。出身は大阪医科大学で卒業後は、神戸大学付属病院で初期研修を経て入局いたしました。整形外科は外傷や腫瘍、変性疾患などに対して、手術や保存療法で運動器の機能再建に取り組む科であり、周術期の患者様のADLが術後劇的に改善する機会を目の当たりにできるのは整形外科の魅力の一つだと思います。実際私も初期研修病院で歩けなかった患者様が元気に歩いて帰るところをみて整形外科の魅力に惹かれました。まだまだわからないことだらけですが、指導して下さる先生方も親しみやすく丁寧に指導してもらい楽しく研修しています。整形外科に興味がある研修医や学生さんたちは是非一度見学にきてみてはいかがでしょうか。



神谷 一誠

大阪医科大学を卒業後、市中病院で2年間研修を行い、洛西シミズ病院で1年間専攻医としてお世話になりました。洛西シミズ病院では、整形外科医として知識や経験が全くないなか、たくさんの先生方に丁寧な指導をしていただき、充実した1年間を過ごすことができました。本当にたくさんのご指導をいただいていたのですが、特に印象に残っているのは、身体診察の大切さです。整形外科では、視診、触診、神経学的所見など、身体診察を行うことでたくさんの情報がわかり、その情報を元に画像検査等で診断をつけていきます。初めのころは、身体診察の方法が全くわからず苦戦していましたが、一つ一つ丁寧にご教授いただき、整形外科の面白さを実感することができました。本当に優しく、面白い先生ばかりなので、整形外科を考えている先生方は、大阪医科大学整形外科を選択肢の一つとして考えてみてください。



齋藤 敦徳

令和2年度入局の齋藤敦徳です。私は大阪医科大学を卒業後、関西電力病院にて初期研修を行いました。どこに入局するかで迷った時期もありましたが、医局の雰囲気や先生方に勧誘して頂いた事もあり、母校である大阪医科大学に入局する事を決めました。手術や診察等、分からない事だらけで勉強の毎日ですが、先生方の熱心な指導等もあり、また医局が非常にアットホームな雰囲気であるため、楽しく充実した研修を送ることができています。同期にも恵まれ、お互い切磋琢磨し、冗談を言い合いながら毎日仕事をしております。入局して後悔することは絶対ないもので、整形外科に少しでも興味がありましたら大阪医科大学にぜひ来て下さい。将来、大阪医科大学整形外科で共に働ける日を心待ちにしております。



佐野 庸平

令和1年度入局の佐野庸平です。研修終了後は1年救急医療部で過ごした後、整形外科に入局させていただきました。どの診療科も重要でやりがいがあると思いますが、整形外科のやりがいの一つは、手術の前夜で劇的に症状が改善することだと思います。歩行障害や疼痛で苦しんでいる方の症状が改善し退院する姿をみる度にやりがいある科だと感じます。また、上級医の先生方は尊敬できる先生ばかりです。術前術後のカンファレンスは厳しい指摘を受けることも多々ありますが、毎回とても勉強になります。まだまだ未熟ですが、一人前を目指してこれからも勉強を続けていきます。



新保 高志郎

令和2年入局の新保です。大阪医科大学を卒業後、市中病院で2年間研修を終え本年度入局となりました。現在は西宮協立脳神経外科病院でレジデント生活を送っています。大学での研修をしていないボツと出のような私でも快く受け入れて頂き感謝しています。同期入局は人数が多く関連病院でレジデントをスタートしましたが、先輩方は当然大学を経て来られているので、様々な大学でのエピソードや指導内容も教えて頂いています。また、外傷を中心に非常に多くの手術症例を経験させていただいています。未熟なためわからないことも多いですが、基本的なことから丁寧に指導いただき感謝の意が絶えません。メディカルの方々も非常に協力的でスムーズに仕事ができ、自分の時間も十分に確保できます。当初の想像以上に有意義な1年を送れました。大阪医科大学整形外科は他学出身者も非常に多いです。少しでも興味をもたれたならば、気兼ねなく見学に来てください。入局したくなること間違いなしです。



田中 宏茂

令和2年度入局の田中宏茂です。昨年の春より医局員の先生方には暖かく迎えていただき、たくさんの心のこもったご指導をいただいたおかげで非常に充実したレジデント生活を送ることができました。また、優秀な同期入局員に囲まれ大変恵まれた環境であったと感じております。カンファレンスを軸とした日々の診療の中で整形外科の奥深さに驚愕することは多々ありますが、整形外科を専攻したことに後悔を感じることはなく、学びが深まっていくことを実感しております。

このページをご覧になっているということは、あなたも大阪医大整形外科に興味をお持ちのことだと思います。一度雰囲気を確認するために見学に来てみることをおすすめします。また、医局の野球チームの一員となってくださる方も募集しております。



谷 建吾

埼玉医科大学を卒業後、2年間市中病院での研修を行い令和2年に大阪医科大学整形外科に入局させて頂いた谷建吾と申します。レジデント1年目は西宮協立脳神経外科病院でスタートし、外傷を中心として1年目から多くの執刀を経験させて頂いています。熱心で心優しい先生にご指導頂き充実したレジデント生活を送っています。コロナ禍という過去に前例のない年であり、私生活で飲みに行ったりする息抜きの機会も研修医の頃から比べると激減しましたが、職場の雰囲気がとても良く最高の環境で働かせていただいているためストレスも特に感じませんでした。まだまだ整形外科という分野において勉強すべき事、経験すべき事は山ほどありますが1年間整形外科医として働く中で整形外科という科の選択に間違いはなかったと確信しています。また自分は他大学出身ではありますが他大学出身者に対しても歓迎的であるところも入局して良かったなと感じています。

病院や科の選択に迷っておられる先生、一度医局に遊びにきてください。当医局の雰囲気の良さを体感していただけたら良いかと思います。



中嶋 建元

令和2年入局の中嶋建元です。大阪医科大学を卒業後、同付属病院で2年間研修を行いそのまま大阪医科大学の整形外科に入局しました。正直、研修医ローテーション中は内科や他の外科系、様々な科の魅力を感じ興味を持ちました。しかし、整形外科の先生方の温かい指導と明るい雰囲気、医局で居心地の良さなどここでならしっかりと学ぶことができると感じ、今年はコロナの影響でありましたが、フットサルや忘年会も研修医の時に参加させて頂いて非常に楽しく過ごすことができました。そんな医局で整形外科の専門性の高さや実際の手術手技に触れ、難しさ面白さを感じ入局を決めました。さらに今年は同期がたくさんいてとても恵まれた環境で過ごしています。興味のある方はぜひ一度見学に来て下さい！



西川 祥太郎

令和2年度入局の西川祥太郎と申します。帝京大学卒業後、北摂総合病院で初期研修し大阪医科大学整形外科に入局しました。初期研修期間中に、整形外科の面白さを知り専攻することを決めました。初期研修中は外傷症例が多く、手術し回復していく過程を勉強できました。手術後、徐々にADLが拡大していくことに面白さ・達成感を感じていました。しかし、大学病院でレジデント生活が始まると、"歩いては転んだ。骨折があるから手術"といった分かりやすい症例は少なくなります。診断に至るまでの過程(主訴、現病歴、身体所見、画像所見等)、診断しからの治療方針を深く勉強していくことになります。この考える過程が面白く、また、治療(手術に限らず保存療法でも)開始することで症状が改善していくことにやりがいを感じています。大阪医科大学出身ではない私ですが、北摂総合病院が関連施設であることから当教室を見学し、医局の雰囲気を見て入局を決めました。和気藹藹とした雰囲気、教育熱心な先生方が多いです。大阪医科大学の整形外科を選んで良かったと思います。当教室のさらなる発展のためには先生方の力が必要不可欠です。お待ちしております。



廣田 宙自

令和2年度より入局させて頂きました廣田宙自と申します。大学時代はラグビー部で、学生の頃から整形外科にお世話になっており、整形外科には興味がありました。整形外科1年目は、関連病院である洛西シミズ病院でのスタートでした。洛西シミズ病院では、主に外傷を経験させていただきました。研修は大学病院であり、外傷の経験はほとんどなく、問診、触診、画像読影も最初は全くできませんでした。外傷患者の全身を見落としがないように診察することは非常に難しかったですが、上級位の先生に、一つ一つ丁寧に教えていただき、日々学ぶことができました。洛西シミズ病院には、手、肩、足、関節、脊椎の班の先生が在籍されており、症例相談もしやすく、大変勉強になりました。入局してから早一年、忙しく大変な日もありますが、やりがいを感じられる毎日です。整形外科を考えられている方は、ぜひ一度見学に来て下さい。



宮田 慎平

令和2年度入局の宮田慎平です。大阪医科大学を卒業後、順天堂大学で初期研修を2年間行い、大阪医科大学整形外科に入局させていただきました。大学時代はラグビー部に所属しており、学生時代から何となく整形外科に興味を持っていた。入局当時は整形外科の知識はほとんど無いに等しくカンファレンスで非常に苦しかったです。しかし上級医の先生方に熱心に指導していただき少しずつ知識が増えていくにつれて整形外科という分野の楽しさが何倍にも膨れ上がったような気がします。アットホームな医局で、多くの同期と切磋琢磨しながら過ごしたあつという間の1年間でした。興味のある方は是非一度見学に来て下さい。

取得できる認定医・専門医

日本整形外科学会の会員になって学会認定施設での研修が6年を経過すれば専門医の試験資格が得られます(注:初期研修の2年間は、会員でなくても研修期間に含む事ができます。後期研修開始時に学会に入会すれば4年後には受験資格が得られます)。

また、日本整形外科学会認定のスポーツ医、リウマチ医、脊椎脊髄病医、脊椎内視鏡下手術・技術認定医、運動器リハビリテーション医の資格も順次取得することが可能です。

その他、日本リウマチ学会の専門医、脊椎脊髄病学会の脊椎脊髄外科指導医、手の外科学会認定手の外科専門医など、より専門性の高い専門医への道も開かれています。

主たる関連病院および他施設との交流

連携病院である高槻赤十字病院、シミズ病院、第一東和会病院、北摂総合病院、葛城病院、西宮協立脳神経外科病院、ベリタス病院、済生会茨木病院、城山病院、南大阪病院、囃生会脳神経外科病院、蒼生病院など、約25の関連病院があります。大学および各関連病院間が有機的な関係を保つよう努力されており、関連病院談話会、各グループの症例検討会(北摂脊椎外科研究会、北摂手の外科懇話会、近畿足の外科症例検討会、三島リウマチフォーラム、新リバーサイドカンファレンス)などが活発に行われています。

参加学会等

日本整形外科学会をはじめとして、各専門分野に独立した学会があります。興味のある学会に参加が可能です。

大学院における教育・研究・海外留学

大学院で現在行われている臨床／基礎／臨床研究の概要や海外留学の報告を紹介します。

基礎研究

アメリカでの腱に関する基礎研究

藤野 圭太郎(平成20年卒)

2018年夏より、アメリカのペンシルバニア州フィラデルフィアにある、University of Pennsylvania Mckay Orthopaedic Research Laboratoryに基礎研究を行うために、留学をさせていただいています。研究室長であるLouis J. Soslowsky教授は腱に関する研究においては、アメリカの第一人者であり、研究室には各国からの留学生を含む100名を超えるメンバーが、14のチームに分かれて、日々研究を行なっています。その中でも私はSoslowsky教授と Nathaniel Dyment先生の2つのチームに所属し、主に腱損傷後の治癒過程における研究に携わっています。

アメリカの整形外科研究部門のなかで3番目に多くの対外資金を集めている研究室だけあって、その施設の規模やできる手技の多様性に、初めて来た時には度肝を抜かれました。半年経過した今でも、時々見たことのない部屋や機器に出会い驚かされることがあります。当初は研究手技や理論を習得していくのに、英語の壁もあり苦勞をしていましたが、週2回のミーティングを重ねるうちに、現在行なっている研究の面白さや、その革新性について理解できるようになり、今では毎日とても充実した日々を送っています。特にDyment先生とともに行なっている、前十字靱帯再建後の骨孔内における移植腱の癒合過程や腱損傷後の治癒過程を、遺伝子組換えマウスを用いて追跡する研究はとても興味深く、なんとかこの研究で結果をだし、論文を書けるように日々頑張っているところです。

海外交流／海外留学

国際交流も積極的に行っており、外国からのビジターも多く、外国施設との医師の交換研修も行っています。

アメリカ(Orthopaedic Biomechanics Laboratory、Kerlan-Jobe Orthopaedic Clinic、スクリプス研究所、University of Pennsylvania Mckay Orthopaedic Research Laboratory)、フランス(日仏交換留学生制度、Bordeaux University Hospital)などへの海外留学のチャンスがあります。



アメリカの研究室で。前列左が三幡先生、前列右がThay Q Lee教授。

レクリエーション

スポーツやレクリエーションは盛んに行われており、サッカー、フットサル、ゴルフコンペ、他大学とのテニスの交流試合などが、年間のスケジュールに組み込まれ、医局関係者の楽しみとなっています。

また、異国の土地で生活することは、留学の一つの醍醐味だと思っています。言語の違いはもちろんのこと、価値観の違いやアメリカに根付く文化を肌で感じつつ、休日に家族と観光や買い物にでかけることは、一生の思い出になります。私もまだ留学中の身ですが、当教室に入局し整形外科学を学ぶ先生方には、是非とも留学を勧めたいと思っています。



Dyment Labチームメンバー(中央)Nathaniel Dyment 先生、(左から2番目)筆者



Mackay Research Laboratory前



腱損傷モデルを作成中

大阪医科薬科大学整形外科で行われている基礎研究(関節)

講師 大槻 周平(平成10年入局)

整形外科教室の研究は、実際に臨床現場で応用されることを目標とし、テーマも日々の診療や手術で困っていることやわかっていることを中心に行っています。

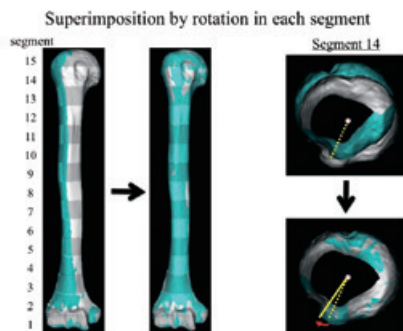
私が担当している膝関節の領域では、半月板と軟骨を中心に研究に取り組んでいます。半月板はひと昔前まで「傷んだものは切除」という考え方でしたが、切除後の膝関節では特に変形性膝関節症が発症することがわかってきました。半月板損傷部が縫合修復できればよいのですが、加齢変化に伴った損傷の場合では縫合困難な場合もあり、現在でも部分切除という術式は残っています。そこで、自分の組織に置き換わるような半月板scaffoldの開発を研究テーマとし、日本医療機構(AMED)の大型支援も3年目を迎えました。現在は、大動物のブタに全身麻酔をかけて半月板損傷モデルに開発した半月板を移植し、その評価をヒトと同じ採血やMRIを用いて安全性などを検討しております。1回の手術で損傷した半月板がすべて自分の組織に置き換わって治る、夢のような日本オリジナルの半月板開発を、大阪医科薬科大学から発信すべく進めています。これが臨床応用されれば、スポーツ選手から高齢者の方々まで多くの人々のQOL向上に寄与できると信じています。新しい半月板治療を待っておられる患者さんにできるだけ早くお届けできるよう日々、頑張っています。

臨床研究

臨床研究は診療研究班がそれぞれ精力的に取り組んでいます、その中でも脊椎の変形や変性疾患に対する治療法、長管骨の延長法、鏡視下手術、低侵襲手術法、運動器の超音波診断法、転移性骨腫瘍の予後推定と治療、理学的診療の理論と方法などについては、すでに少なからぬ成果が出ています。それらのうち分類法、診断法、手術法、装具などのいくつかについては本学あるいは本学研究者の名を冠した方式として、国内・国外において高い評価を得ています。



研究風景



「野球選手における上腕骨の形態変化:三次元CT再構築画像を用いた捻れの検討」ICPアルゴリズムを適応し左右の上腕骨を重ね合わせることで、捻れの生じる部位と程度を検討しています。

フランスでの臨床留学

助教 藤城 高志(平成18年卒)

2016年の6月から2年間の予定で、フランスのボルドーにある Bordeaux University Hospital Spine Unit 1に臨床留学させていただきます。

Jean-Marc Vital教授が主催するこの教室は(2017年からVital教授は退官され、現在はOlivier Gille教授が主催)、現在世界中で注目されている脊柱変形治療に関して数多くの新しい概念を生み出してきたリーダー的存在です。フランスでも脊椎外科における名門中の名門であり、3人の教授、5人の外科医、そして半年毎に入れ替わる5-6人のインターンで構成され、年間約2000件の脊椎手術が行われています。また、ヨーロッパに限らず、常に世界中から多くの留学生がやって来ます。私は手術の勉強と同時に、ヨーロッパの脊椎センターのデータを解析し、脊柱変形の手術適応を確立するための研究の一部を担っており、なんとか研究成果を残せるよう奮闘しています。

島国の日本に過ごしてきた者にとって多くの国が地続きの国境で接するヨーロッパは、多種多様な人種と文化が交流する不思議で魅力的な場所です。休みがあればフランス国内はもちろん、スペインやドイツなど、多くの土地に旅行し、ヨーロッパを家族とともに満喫しています。当教室に入局された際には、留学して海外で生活することも是非視野に入れていただければと思います。



Spinal Unit 1の面々



手術中



ブルス広場の水鏡にて